

Clinician Scientist 育成の意義

トータルヘルスケアの“司令塔”

基礎研究者との連携

Clinician Scientist

臨床の視点に立ち
基礎研究を実践する

育成の重点!

CS

臨床課題の解決
への強い関心

Scientific Clinician
高い科学的思考力
を有する臨床医



「救急搬送を断られた」「通院中の診療科が閉鎖された」など、医師不足が引き起こす様々な現象が身近に感じられるようになってきた。医療は、水道や電気と同じく社会を支える基礎という認識が広まっている。医師の養成には長い時間がかかる。大学の医学部で6年学んだ後、基本の臨床研修で2年、その後の専門研修も含めると10年以上を要する。医師を育てるには、10年、15年先を考えた視野が必要になる。

医師には、臨床医だけでなく

医学研究・教育の危機



田中 雄二 郎
東京医科歯科大教授

研究医もいる。臨床医も開業医、病院勤務の専門医などがある。どんな分野であれ、医師は大学

大学の医師確保

医学部からしか生まれないと、教授も、整形外科の研修医から

「種草」のような存在だ。従来は、大学院や大学を基礎とした専門研修の中から生まれ



参考資料 COVID-19対応状況 1/4

診療実績

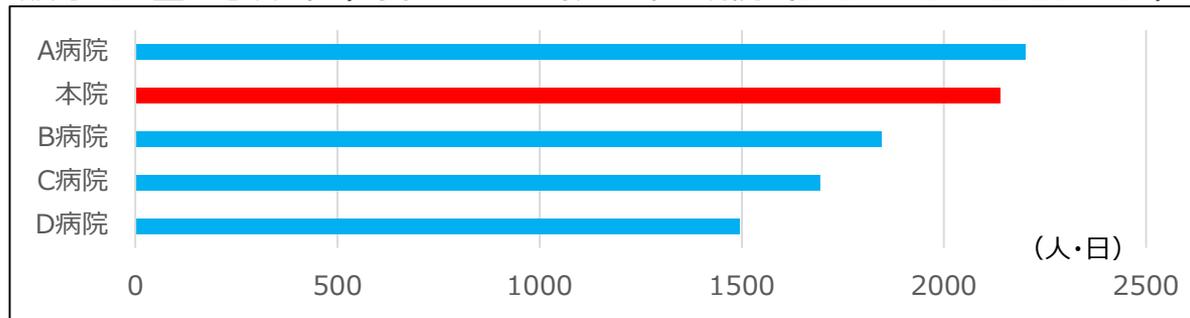
「力を合わせて、患者と仲間たちをコロナから守る」という方針のもと、**多くの重症コロナ患者を受入れ**

本院におけるコロナ患者受入れ実績
(2020.4.2~2022.6.30)

	人数	延べ人数
重症※	202人	2,990人・日
中等症等	796人	13,484人・日
疑い	3,636人	18,937人・日

※人工呼吸器またはECMOを装着

都内コロナ重症患者（※）受入れ延べ人数 上位5病院（2020.8.19~2022.6.28）



主な取組

※件数・回数・人数は2022.6.30迄の延べ実績

☆PCR検査：**75,532件**

- ✓ 入院前全件スクリーニング（2020.3~）
- ✓ 変異株スクリーニング（2021.2~）
- ✓ 全教職員・学生への拡大（2021.4~）



☆ワクチン接種：**23,014回**

- ✓ チーム医科歯科で人材バンクを構築し、職域接種・大規模接種へ協力（東京都、文京区、他大学等）
- ✓ 歯科医師約430名が研修受講し打ち手に



☆コロナ外来：**2,278人**

- ✓ 歯科クリーンルーム外来（歯科CT活用）
- ✓ 3号館コロナ肺炎外来（駐車場スペース改修）
- ✓ コロナ外来診療センター（コンテナCT設置）



上記の他、学生、職員を対象に抗原検査キットを配布
・2021.8~2022.6 約2万8千回分

チームTMDUでの取組

★体制強化

- ✓ 病院新型コロナウイルス対策室の設置
→情報集約化、東京都福祉保健局と緊密に連携
- ✓ コロナ対策会議・アセスメント会議
(当初週5回→現状週2回)
- ✓ 重症系看護師30名増員



★大規模ワクチン接種プロジェクト

- ✓ 複数の行政区にまたがる、全国的にも例のない大規模接種(計57,325回)を実施@東京ドーム

★基礎研究分野からの支援

- ✓ 医学部、歯学部、研究所の基礎研究分野によるBSL3レベルでのPCR検査協力

★歯系診療部門からの支援

- ✓ 人員派遣：看護師5名、臨床検査技師1名、放射線技師1名
- ✓ 技工部リアルモードスタジオでフェイスシールド制作

★メンタルヘルスケアサポート

- ✓ これ迄の職員に対する延面談実施数3,304回
→精神科・心身医療科が実施

★バックヤードチーム

- ✓ 診療制限により手の空いた外科系医師、研修医、歯科医などがICU清掃等に協力



★歯科診療における感染対策

- ✓ 口腔外バキュームを120台増設(105→225台)
→コロナ前の患者数(1,500人/日)に対応可能な態勢を整備

★感染症内科

- ✓ 大規模な感染症発生時でも、迅速な感染症診療へのシフトが可能な診療体制を構築(2021.10～)

COVID-19関連研究 **157**件（臨床研究 131件・基礎研究 26件→うち、産学連携関連研究 24件）

研究例（医系診療部門）

新型コロナウイルス全ゲノム解析プロジェクト 第10報

「北米地域で確認されているオミクロン系統株の本邦市中流行、および市中に長期間持続しているデルタ系統株への感染事例を確認



研究例（医学部）

腸呼吸の応用により、呼吸不全の治療に成功！
腸換気技術を用いた新たな呼吸管理法の開発へ光

※国際ジャーナルに掲載 掲載誌：Med（オンライン版：2021.5.14）



研究例（医系診療部門）

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）による重症呼吸不全治療に関する同意説明の現状調査
—当事者である患者と家族が意思決定を迫られたとき—



研究例（歯系診療部門）

コロナ禍で収入が減少した人
歯の痛みが1.4倍多い

※国際ジャーナルに掲載

掲載誌：Journal of Dental Research
(2021.4.2)



産学連携研究例 （医系診療部門）

快適で安全な医療用ガウン
共同開発を開始

（帝人フロンティアと開発中）



画像提供：東京医科歯科大学



本学学長の田中雄二郎は、内閣官房新型コロナウイルス等感染症対策推進室に設置（令和4年4月28日）された「**新型コロナウイルス感染症対応に関する有識者会議**」の構成員として参画。

主に以下の点に関して、**都内の大学病院の中で最大数の重症患者を受け入れ**、新型コロナウイルス感染症の最前線に対応している機関の長として意見。

- ①新型コロナウイルス感染症発生以降これまでの、新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく対応や、保健・医療の提供体制の構築の対応等
- ②上記の対応に係る中長期的観点からの課題

● 構成員は以下の通り（五十音順・敬称略）

秋池 玲子	ボストン・コンサルティング・グループ マネージング・ディレクター & シニア・パートナー
草場 鉄周	日本プライマリ・ケア連合学会理事長
穴戸 常寿	東京大学教授
菅原 晶子	公益社団法人経済同友会常務理事
田中 雄二郎	東京医科歯科大学学長
(座長) 永井 良三	自治医科大学学長
古市 憲寿	社会学者
若林 辰雄	三菱UFJ信託銀行株式会社特別顧問